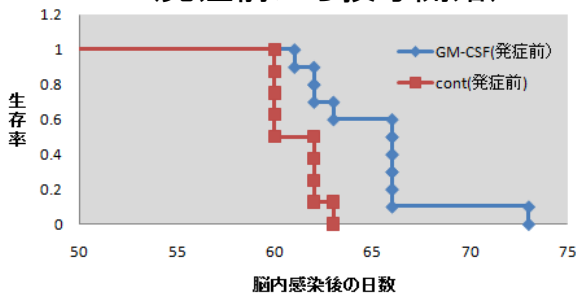


プリオン病の治療予防に関する基礎研究

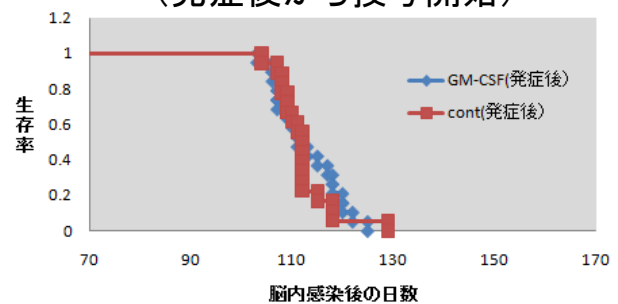
研究分担者: 東北大学大学院医学系研究科 堂浦克美

疾患モデルに依存するGM-CSFの効果

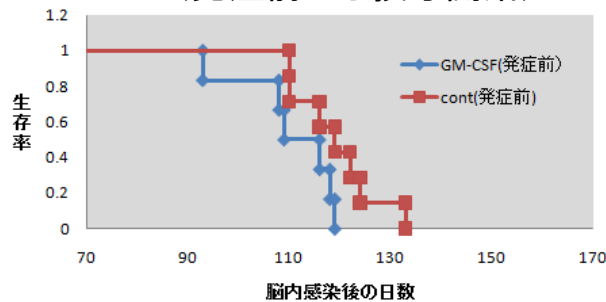
1. Tg7-263Kプリオン病動物
(発症前から投与開始)



2. Tga20-22Lプリオン病動物
(発症後から投与開始)



3. Tga20-22Lプリオン病動物
(発症前から投与開始)



解説

1. GM-CSF(顆粒球単球コロニー刺激因子)は、Tg7-263K早発系プリオン病動物においては、感染後期(発症前)からの投与でも生命予後を改善する有効な薬剤である。
2. 発症期が明確に評価できるTga20-22Lプリオン病動物で、発症後のGM-CSF投与の効果を検討したが、生命予後を改善する効果は観察されなかった。
3. Tga20-22Lプリオン病動物で、感染後期(発症前)からのGM-CSF投与の効果も調べたが、Tg7-263Kプリオン病動物で認められたような効果は観察されなかった。GM-CSFの効果は、疾患モデルに依存していることが明らかとなった。このことは、プリオン病のタイプによってはGM-CSFの効果期待できないものがあることを示唆している。